

○「大住地区が初の地区連を実施」

(京都府京田辺市大住地区第1回地区連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

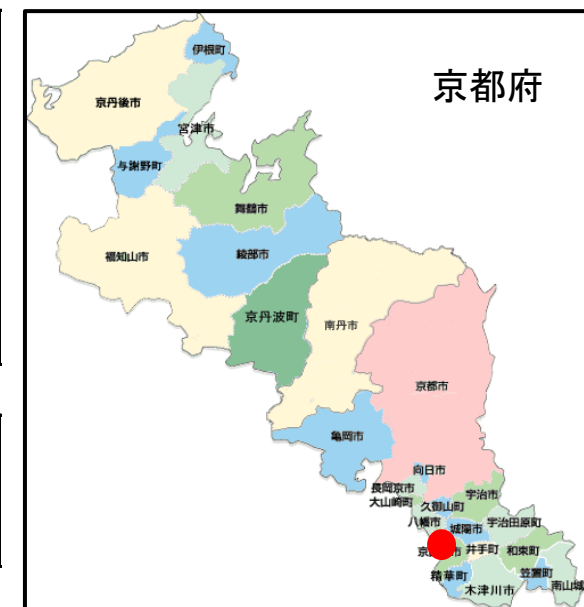
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年1月26日(土) 20:00~21:30
- 場 所: 京田辺市三野公民館
- 出席者: 委員:5人
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

- 京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している。
- 水稻を中心になす、玉露、てん茶、えびいもなどが栽培されているが、高齢化により生産力が低下してきている。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 市の北部に位置し、松井、西八、東林、岡村、三野の5区からなり、南側にはJRが走り、都市化が進んでいる。
- ほ場整備により優良な農地が広がっている松井、西八でも、担い手の不足により遊休農地が出てきている。
- 担い手の不足に加え、地域を先導するリーダーも不在で、今後、急速に農地の遊休化の進展が懸念される。
- 「米を作れば損をする。米は儲からない。」と言って、後継者が米づくりをしない、農業に関心がない。
- 集落営農を進めたいが、先導する者がいない、3~4人で機械の共同利用から始めたい。
- JAが米を高く買う、機械を貸す、ライスセンターを建てるなど農家を支援してほしい。自分で値付けし農産物を高く売る取組も必要等の意見が出され、次回は、農家組合長、JA等の参加を得て、連絡会議を行うこととなった。

4 活動結果

- | | | |
|-----------|---|----|
| ○ 情報・意見交換 | 2 | 時間 |
| ○ 担い手への集積 | a | 増加 |
| ○ 遊休農地面積 | a | 解消 |
| ○ 新規就農者 | 人 | 支援 |